

森

森に緑を、
住まいに木を



森に緑を、住まいに木を

特定非営利活動法人
木の家だいすきの会

すぎんこプロジェクト

平成 23 年度埼玉県 NPO 活動促進助成事業 (NPO 活動サポート事業)



本事業は埼玉県 NPO 基金の「NPO 活動サポート事業」の助成を受け実施したものです。

<http://www.kinoie.org> mail office@kinoie.org

NPO法人木の家だいすきの会事務局

東京事務所 03-5261-0951 所沢事務所 04-2926-6045

森に緑を、住まいに木を



特定非営利活動法人木の家だいきの会
代表理事 鈴木 進

はじめに

本会では、「森に緑を、住まいに木を」を理念として、日本の木を使った家づくりを推進することで、日本の森の保全を図る活動を展開しています。また、市民を対象に「森と都市の交流」をテーマとした活動を行っており、**すぎんこプロジェクト**も、この一環として実施しているものです。平成 23 年度は、3 つの児童クラブから応募を頂き、所沢市和ヶ原の林児童クラブに決定させて頂きました。10 月 22 日に親子を対象に、埼玉県ときがわ町の森で植林活動と間伐材を使った「マイはしづくり」を行い、11 月 19 日にときがわの森の木を使って子どもたちの生活の場である児童クラブ施設の床張りワークショップを実施しました。今年の指導は、青梅の小山利一棟梁、息子の雅史の親子です。日本での木育の先駆者である埼玉大学浅田教授からは、初めに、雅史さんが丁寧に子供たちに教えたことが大変良かったという評価を頂きました。「まずやってみろ」というのではなく、「きちっと教えてやらせてみる」という教育の基本の原理にかなっているそうです。

今年度は、平成 23 年度埼玉県 NPO 活動促進助成事業（NPO 活動サポート事業）の助成より実現することができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

活動の背景と目的

森林資源は成長する範囲で大事に使えば、循環的な利用が可能な資源です。すぎんこプロジェクトは、次代を担う子ども達が、本物の生きた自然素材に触れることで、木の良さを知る機会とするとともに、木を大事に使うことの大切さを学ぶ機会としたいと考えています。

床張りワークショップでの子供たちの道具を使いこなす上達には眼を見張るものがあります。こうした活動を通じて、子供たちの自信や自分達も役に立つという自己肯定感や達成感を育めればと思います。

事前準備

7月13日～8月12日：所沢市青少年課を通じて参加児童クラブを募集、所沢市林児童クラブ、富岡児童クラブ、所沢児童クラブの3児童クラブに応募頂く

7月13日～27日：埼玉県、所沢市、ときがわ町の後援承認申請及び承認通知

8月26日：所沢市林児童クラブに決定

9月20日：児童クラブ指導員とともに埼玉大学教育学部浅田教授を訪問、木育に関する指導を受ける。

10月5日：プロジェクトの実施に関して所沢市と覚書交換

10月7日：ときがわ現地下見、植林&木育プログラムに関する事前打ち合わせ

10月12日：林児童クラブの施設下見、床張ワークショップに関する事前打ち合わせ

実施概要

●対象

林児童クラブ（埼玉県所沢市）

●埼玉県ときがわ町の森での植林・木育活動

日時：平成23年10月22日(土)

場所：埼玉県ときがわ町大字西平

参加：33名

内容：植林、間伐材のハシづくり、森と木の話し

●児童クラブ施設の床張りワークショップ

日時：平成23年11月19日(土)

場所：林児童クラブ(埼玉県所沢市和ヶ原)

参加：34名

内容：無垢の杉材で児童クラブ施設の床を張るワークショップ

実施体制

主催：NPO 法人木の家だいすきの会

共催：協同組合彩の森とき川

後援：埼玉県、所沢市、ときがわ町

協力：NPO 法人所沢市学童クラブの会

助成：埼玉県 NPO 基金・NPO 活動サポート事業

指導：三ヶ宮建築

●木育プログラム助言・指導

浅田茂裕（埼玉大学教育学部技術教育講座木材研究室）

●植林指導

田中進（協同組合彩の森とき川）

松村至（協同組合彩の森とき川）

中島直人（協同組合彩の森とき川）

山口敏彦（協同組合彩の森とき川）

杉川明男（協同組合彩の森とき川）

●マイはしづくり指導

金丸慎一郎（所沢市林児童クラブ）

井原悦子（所沢市林児童クラブ）

●杉厚板の製材

田中進（協同組合彩の森とき川／ときがわ木材(有)）

●床張ワークショップ指導

小山利一（三ヶ宮建築）

小山雅史（三ヶ宮建築）

小山アヤ子（三ヶ宮建築）

塩野輝之（匠設計）

●進行管理

鈴木進（NPO 法人木の家だいすきの会）

山本幸恵（NPO 法人木の家だいすきの会）

植林&マイはしづくり

10月22日

■植林

所沢市林児童クラブの子供たち、その親さんと指導員、協同組合彩の森とき川、NPO木の家だいすきの会の総勢33名で、ときがわ町の木“みつばつつじ”の植林をしました。場所は、彩の森とき川貯木場の入口の斜面林、第1回目の所沢市松井児童クラブ植えた場所の向かい側にあたります。

協同組合彩の森とき川代表理事の田中さんから、植え方の説明をして頂いたあと、家族単位で作業。雨模様の空が作業に入ってから1時間ほどすると本格的な雨になりましたが、足場が良い場所だったので、それにもひるまず、植林を続行。12時ころまでには、予定した場所の植林を終了し、1家族数本ずつ植えることができました。

■間伐材でマイはしづくり

午後は、今年度からの新たな取り組みです。

事前に、埼玉大学教育学部の浅田茂裕教授の研修室に林児童クラブの金丸さんと一緒に伺い、木育プログラムづくりに関する指導を受け、その成果を午後の時間を使って実験的に実施しようという試みです。

林児童クラブの金丸さんが事前に「木育」の活動実施計画書を作成しましたが、その主な項目は、①活動のねらいの決定、②活動の具体化、③実施環境の確認、④指導体制と役割、⑤活動のタイムスケジュール、から成ります。この実施計画のフレームは、浅田教授が木育の手引きを策定する一環として、木育活動に取り組む指導者、先生向けに作成したものです。

プログラムは2つのステップからなり、第1ステップは「木材と森林について知る」と題して、森と二酸化炭素の話。第2ステップは、道具を使って日常の生活用品をつくり、木に親しみながら木を知ることが目的にしています。

具体的な取り組み内容は、ヒノキ等の間伐材を使用したマイはしづくりへの挑戦です。

午後1時にスタートして、午後2時半ころには子供たち全員がマイはしづくりを完了しました。



■親御さんの声

参加した7家族の親ごさんをお願いして実施したアンケート調査結果によれば、参加の動機は、「児童クラブの行事だから」と「子供に体験させたい」が同数で2分しました。

森の保全に木を使うことが役に立つことを知っていたかどうかを尋ねたところ、「知らなかった」4名、「知っていた」3名で、知らなかった人が上回りました。今回のプログラムで地域の森の保全と木を使うこととの関係を新たに知ってもらえたことは意義あることだと感じるとともに、まだまだ木を伐ることが森の破壊になると思っている人が多いことを思い知らされました。

今年から新たに始めた「マイはしづくり」の取り組みは、全員「子供にとって有意義であった」という回答でした。林児童クラブの金丸さんが、木を伐って植林を育てることの大切さ、年寄りになった木を伐って森が若返りすることで二酸化炭素の蓄積も進むことなどを事前に説明して「マイはしづくり」に取り組みましたが、森の循環的な利用の方法と子供たちが身近で使うはしづくりの結びつきが良く理解されていたと思います。

活動がきつかったかどうか、という質問については、「もの足りなかった」と、明確に答えた人が3名いました。今回、雨のため下草刈りを省いたことが原因と考えられます。

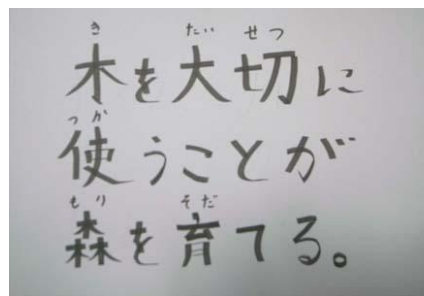
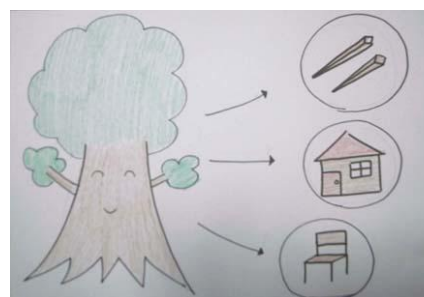
ときがわ町の人たちとの交流タイムは、森に携わる人たちの森への思いを感じていただくとともに、森の木を伐って更新し、伐った木は大事に使うことが森の保全に大切だ、というメッセージを実感として伝えることにねらいがあります。全員が「有意義だった」と回答頂きました。また、交流タイムの中で、「森の木を使うことが、森の保全になること、また、その難しさもよくわかった」という意見が多く参加者から寄せられ、地域の森に関する問題の理解深まったことを感じました。



ときがわの森の木の話しを聞く



子供たちはマイはしづくりに取り組む



マイはしづくりの前に森と木の話しを聞く

床張ワークショップ

11月19日

10月の下旬に植林した埼玉県ときがわ町の森で育った杉を使って、林児童クラブのフローリングだった床に無垢の厚30mmの杉の床を張るワークショップを実施しました。

参加者は、林児童クラブの子供たち、その親御さん、児童クラブの指導員、木の家だいすきの会の大工・設計者の皆さん、埼玉大学教育学部の浅田教授と研究室の学生さんの総勢34名です。一昨年は参加者が多かったため2部制としましたが、今年はちょうど良い人数であったので、最初から最後まで参加が可能となりました。

■親御さんの声

○子供たちのやる気がよく持続したと思います。上達の早さにびっくりしました。

○参加して木のことや道具の使い方が勉強になりました。杉の木も身近に感じるようになりました。

○待ちに待った床張ワークショップ、木のことや道具の使い方など大工さんから話を聞いて、子供たちにはまたとない貴重な経験でした。

○床張は大変だと思っていました。小さな子

には危ないのではと思っていましたが、そうでもないことがわかりました。

○下の子は、お兄ちゃんたちがやっているのを見て、自分でもやりたい気分になったようです。親の手を離れて自分なりに道具の使い方など感覚をつかんでやっていました。

○子供たちの上達の早さにびっくりしました。子供たちの伸びる力のすごさを今日一日実感した思いです。それに、子供たちがまとまって取り組んでいたことにも、すごいと感じました。

■浅田茂裕埼玉大学教授の助言

○本日のプログラムで良かった点は、最初に丁寧に教えたことです。大事なことはきちんと教えて、それから行動すること。教えないで、まず自分でやってみなさい、というやり方は失敗した時に、子供たちに挫折感をもたらすこととなります。今日、しっかり基本を教えて作業に入ったことの成果は大きく、子供たちは自信を持ったと思います。そういう意味で今日のプログラムのMVPは、教師役の若い大工さんですね。

○今朝、フローリングの床は暗く感じました



が、完成して無垢の杉の板の床は大変明るく感じます。学校に木を取り入れた効果に関する全国調査の結果では、木の学校の先生方は、明るい生徒が多いと感じる傾向にあることがわかってきました。つまり、学校や家庭の中で木を使うと、先生と生徒の間、家族間のコミュニケーションのあり方に影響があるということなのです。

○子供たちのやる気を一日持続するのは大変なことです。木のおもちゃや木工などの裏プログラムを用意して、木にふれることを徹

底的に経験するような一日にすることも考えてみてはどうでしょうか。

○床張ワークショップを見ていて優れた点は、子供たちが上手になったということを実感し、それを大人たちが率直に褒めていたことです。子供たちの自分を大事に思う感情を育てるプログラムになりうるのではないのでしょうか。さらに、「こうしてみたら...」というようなちょっとした助言があると、子供たちの「もっとこうしたい」という向上心を育てることになります。



初め、丁寧に教えることがポイント



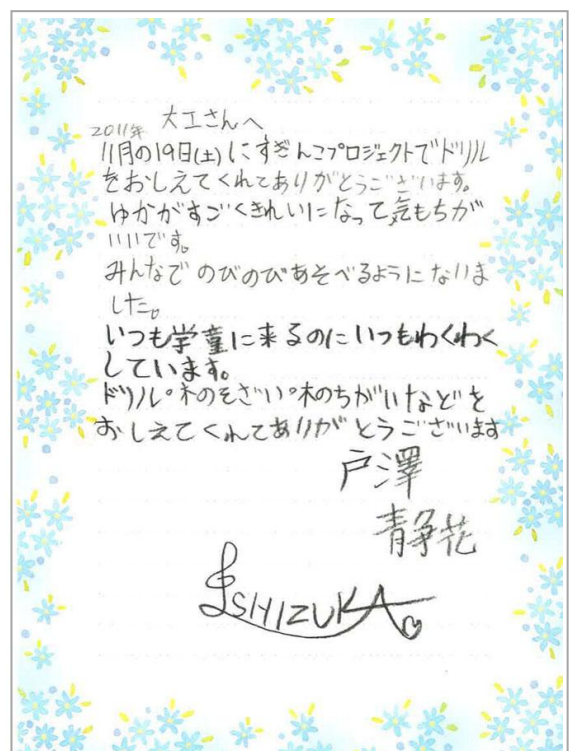
小さな子もやる気が湧いてきた



浅田先生の木育ミニ講座 杉の暖かさを実感する



午後になっても集中はとぎれません。作業もスピードアップ



子供たちから大工さんへの感謝状



森に緑を、住まいに木を

電話による無料住まいの相談を行っています。木の家に関すること、お気軽にお問合せください。

<http://www.kinoie.org> mail office@kinoie.org

問い合わせ：NPO法人木の家だいすきの会事務局
東京事務所 03-5261-0951 所沢事務所 042-926-6045